

令和7年度 北九州市立槻田小学校 学校経営の基本方針

北九州市立槻田小学校
校長 井手口 浩明

1 学校教育目標

『豊かな心とたくましく生きる力をもった子どもの育成』

2 目指す子ども像

「豊かな心とたくましく生きる力をもつ子ども」

- かしこい子（知）…意欲をもち続けて学び、めあてを達成した喜びを味わう子ども
- 思いやりのある子（徳）…思いやりの心を持ち、気もちのよいあいさつができる子ども
- 健康でたくましい子（体）…自分の心と体を鍛え、困難にもめげずがんばる子ども

3 目指す学校像

「子どもたちの笑顔があふれる学校」

- 子どもが力を付け、自分の価値を感じる学校
- 温かい人間関係と信頼で結ばれ、誰一人取り残さない教育を推進する学校
- 地域に開かれた学校

4 目指す教職員像

「学校教育のプロフェッショナルとして向上心を持ち続ける教職員」

- 子ども一人一人のよさに目を向け、愛情をもって子どもを教え導く教職員
- 子どもの力を伸ばすために努力を惜しまない教職員
- 学び合い、支え合い、一丸となって学校教育目標の達成を目指す教職員集団

5 学校教育目標達成に向けて

(1) スクールプラン

① 子どもの学び

【重点目標】

意欲的に学習に取り組み、基礎的基本的な内容を理解できる子どもの育成

【重点的取組】

- ・ 主題研修、若年研修等を通して、「わかる授業づくり」5つのポイントに視点を当てた授業改善に取り組む。
- ・ 授業における ICT の活用等に積極的に取り組むとともに、児童自身の情報活用能力を高めていく。
- ・ 学習規律の徹底を図るための「槻田ルール（仮題）」を作成する。
- ・ 全校一斉に朝学習を実施し、読書活動の定着、基礎基本の学力の定着を図る。

② 子どもの心の育ち

【重点目標】

あいさつや正しい言葉遣いを通して、人を大切にする子どもの育成

【重点的取組】

- ・ 児童会等の取組の中で「あいさつの励行」をすすめ、気もちのよいあいさつを心がける子どもを育てる。
- ・ 道徳科や人権教育の年間計画に沿って、「北九州市子どもつながりプログラム」や「新版いのち」を活用した学習を行い、子どもの心の育ちの推進を図る。
- ・ 生徒指導部を中心に「学校のきまり（ろう下の歩き方等）」の徹底を図る。

③ 子どもの体力

【重点目標】

日常的に運動に親しみ、自分の心と体を鍛える子どもの育成

【重点的取組】

- ・「北九州市体力向上プログラム」を活用した授業づくりと指導の工夫改善に取り組む。
- ・ 体育の授業において、運動が苦手な児童も活動できる場づくりやスモールステップによる学習展開を工夫するなどし、児童が楽しく運動に取り組めるようにする。
- ・ 縦割り活動（大縄跳び等）や持久走記録会等を年間計画に位置付け、年間を通した体力向上を図る。

④ 小中一貫教育

【重点目標】

他学年とのかかわりを通して、進級への期待を高めるとともに上級生としての自覚をもち、自尊感情を高めていく子どもの育成

【重点的取組】

- ・ 小中連携・合同の行事等を行い、児童生徒、また、教職員と児童生徒とが交流する機会をもつことで小中の連携を深める。
- ・ 小・中学校の教諭によるカリキュラム確認会を行い、教職員が義務教育9年間の教育活動を理解することで小学校から中学校への接続を円滑化する。
- ・ 小・中学校教職員間で児童生徒の情報交換を密にとり、個に応じた支援を継続的に行っていく。

⑤ 長欠・不登校

【重点目標】

学校が好きな子どもの育成

【重点的取組】

- ・ 各学級において、子ども一人一人が活躍できる場（係活動等）の充実を図る。
- ・ 年間3回以上（5月、9月、1月）「心と体の生活アンケート」の実施を通して、子どもの心の状態を把握し指導に生かす。
- ・ 毎週の終礼時に各学級の子どもについての情報交換会を行い、全教職員で対応に当たることができるようにする。
- ・ ステップアップルーム等を活用した不登校児童への対応を図る。

(2) 教育活動全般を通して

○ 配慮を要する児童等について情報共有と全職員での組織的な対応

- 保護者との連絡を密にし、保護者、また、児童の思いに寄り添った対応に努める
- 配慮を要する児童に関する定期的な情報共有の場を設定する
- ケース会議等を通して、組織的な対応の在り方を検討する
- 必要に応じて関係機関との連携を図る

○ 組織的な生徒指導の充実

- 生徒指導事案に対する迅速で確実な対応を行う
(学年主任を核にと早期即日対応で、事実確認、早期解決を図る)
- 「報・連・相」の徹底を図り、早期対応による問題の重大化を防止する
- いじめアンケート（「心と体の生活アンケート」を計画的に実施（5月、9月全員面談、1月）し、いじめの早期発見・早期対応に努める
- 「子どもつながりプログラム」を計画的に実践する

○ 保護者と教職員との好ましい人間関係の構築

- こまめな保護者への連絡の徹底を図る（首から上のケガは確実に連絡する）。
(ケガ、教師からの指導、友人とのトラブルなど、必要に応じて)
- ※ 保護者が教師に好感を持てば、子どもにもよい影響が出る
- ※ ときには、よかったことを保護者に伝えるで、よりよい人間関係が築かれる